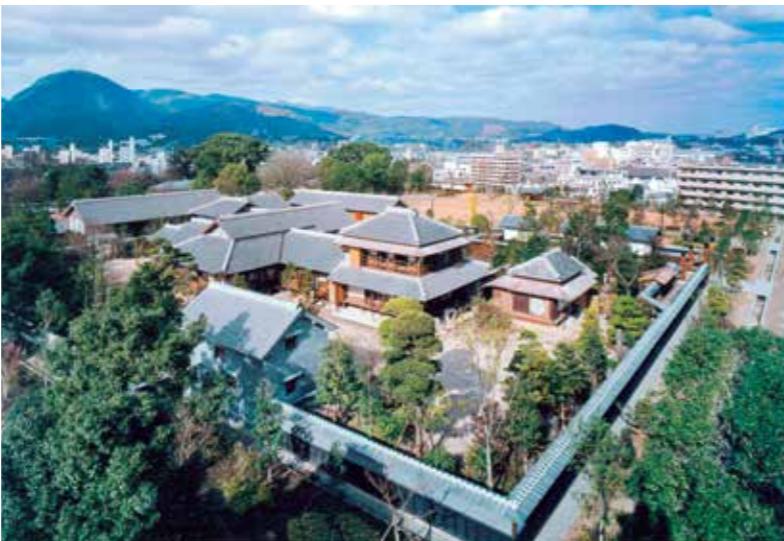


旧細川刑部邸の復旧工事を進めています

旧細川刑部邸敷地内には、12棟の建物と延べ724mの屋敷塀があります。令和6年(2024)10月に開始した旧細川刑部邸の復旧工事では、建物の内外装を撤去し、骨組みと屋根瓦の状態にした上で、建物の傾き調整の作業も終えました。

令和7年(2025)10月現在は、壁に耐震補強を加える作業を行っています。また、今後は土壁、内外装、屋敷塀の復旧作業を進めていく予定です。屋敷塀については新材による復旧になりますが、一部再利用可能な瓦も使用します。

旧細川刑部邸全体の復旧は、令和9年度(2027)に完了する予定です。



被災前の旧細川刑部邸全景



被災後の屋敷塀



被災後の建物内部



建物の傾き調整状況

熊本城

～復興に向けて～



宇土櫓続櫓石垣の解体調査現場(測量中)

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973面、約79,000m²
特別史跡熊本城跡の土地面積：約578,000m²

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600m ² (全体の29.9%) (うち崩落約8,200m ² 、全体の10.4%)
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345m ²
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など



被災直後の不開門

熊本城天守閣企画展示 「宇土櫓を解く -解体調査成果から見える歴史-」

会期 11月5日(水)～
令和8年(2026)3月
場所 熊本城天守閣(大天守)1階
※熊本城の入園料(800円)が必要です



熊本城 復興城主

熊本城の復興を支援してくださる「熊本城 復興城主」を募集しています。1回につき1万円以上寄附された方に、「城主証」「城主手形」を発行します。また、復興城主受付と天守閣4階のデジタル芳名板にてお名前が映し出されます。

熊本城
復興城主
ホームページ



宇土櫓の特徴やこれまでの歴史のほか、現在進んでいる建物・石垣の解体調査の成果を紹介します。

熊本城見学エリア



◆公開時間、範囲の詳細やイベント情報について、最新情報は熊本城公式ホームページをご覧ください。

令和7年度
秋冬号



宇土櫓(五階櫓)と宇土櫓続櫓石垣の解体

宇土櫓(五階櫓)の解体保存工事

令和4年(2022)10月に着手した宇土櫓(五階櫓)の解体保存工事では、令和7年(2025)4月に櫓の骨組みの解体を終え、5月からは昭和2年(1927)の解体修理時に施工されたコンクリート基礎の撤去作業に取り掛かりました。コンクリート基礎の撤去後には、櫓下の石垣上面、地下1階の石垣が約100年ぶりに姿を現しました。

本工事は、令和7年(2025)9月に完了しました。今後は、令和8年(2026)に復旧設計に着手し、令和14年度(2032)の復旧完了を目指します。



土間部コンクリート基礎の撤去前



土間部コンクリート基礎の撤去後



地下1階の石垣

宇土櫓続櫓石垣の解体調査

令和6年(2024)6月から令和7年度下半期にかけて、宇土櫓(五階櫓)から南に延びる宇土櫓続櫓下の石垣(以下「続櫓石垣」という)の解体調査を実施しています。

解体を進めた結果、続櫓石垣の内部は、2つの異なる構造で成り立っていることがわかりました。宇土櫓から工事用スロープに向かって延びる石垣①(下段左図中)の内部は、すべて栗石で構成されています。それに対して、工事用スロープに並行する石垣②(下段左図中)は、内部が栗石と盛土によって構成されていることがわかりました。



上空からみた宇土櫓続櫓石垣(上が北)



東からみた石垣②の内部
(写真左端に工事用スロープ、写真右上半に宇土櫓素屋根)



北十八間櫓・東十八間櫓下石垣の解体調査中です

北十八間櫓と東十八間櫓は、東竹の丸の北東端に位置する櫓です。隣接する五間櫓とともに、いずれも国の重要文化財に指定されています。平成28年熊本地震では、北十八間櫓・東十八間櫓下の石垣が崩落したことで、両櫓とも倒壊しました。また、崩れなかった石垣にも、膨らみや緩みなどの変状が認められたことから、令和7年(2025)3月から北十八間櫓下石垣の一部を含む、東十八間櫓周辺石垣の解体調査を始めました。

最初に石垣上面の調査を行った結果、東十八間櫓の礎石(柱を支える土台の石)の下に石垣があつたことを新たに確認しました。さらに現代の地表面から約80cm下では、江戸時代の地表面と推測される層と石組みの排水溝(下段中央写真)、建物の礎石を確認しました。

解体調査は令和8年度末まで続き、約2,000石の築石を解体予定です。



東十八間櫓下の石垣(北西から、写真右奥に熊本市役所)



江戸時代の排水溝(青線内)



石垣解体の作業風景



田子櫓ほか4棟の解体作業が終わりました

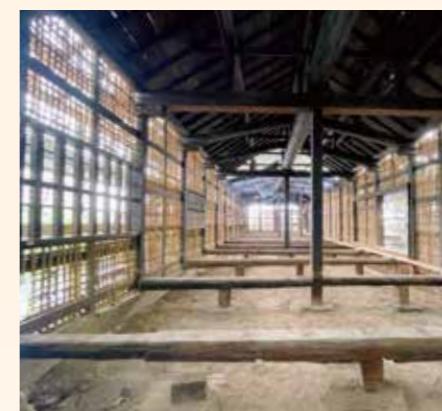
令和6年(2024)6月に開始した田子櫓、七間櫓、十四間櫓、四間櫓及び源之進櫓の復旧工事は順調に進んでおり、令和7年(2025)6月には予定していた範囲の解体作業が完了しました。取り外した木部材や屋根瓦などは、復旧時に再利用するため、破損の状況を調査し、部材保管庫に格納しています。

令和7年9月には各櫓の床下の発掘調査を行いました。調査の結果、石垣内部の栗石と盛土の境を中心に、地震による亀裂が入っている様子(右写真中の青色破線箇所)が明らかになりました。

今後は各櫓に耐震補強を取り入れて、令和10年度(2028)に復旧が完了する予定です。



解体した部材の保管状況



半解体を終えた十四間櫓内部(北から)



骨組みの解体を終えた田子櫓・七間櫓(南から)